

教育目標		人間尊重を基盤として 豊かな心と健康な体をもち 主体性・連帯性のある子どもを育てる 一いきいきなかよくのびのびと笑顔あふれる 稲野小学校					
重点目標		○基礎・基本の徹底を図る ○「話す力」を向上させるためのスピーチ、話し合いの形態を研究する ○一人一人の居場所のある学級集団を創る ○健やかで、あいさつ・掃除など基本的な生活習慣の徹底を図る ○ルールブックの活用や冒険教育、読書活動を充実し、豊かな心の育成を図る ○地域の教育資源を生かした教育活動を進める					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力的向上	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習(読書・視写・漢字・計算・スピーチ)の時間を確保する。 反復練習のためのプリントを作成・活用し、基本事項の反復練習をする。 継続的に本読みに取り組み、適切に評価することにより理解につながる読みの力をつけていく。 本時のねらいを授業の初めに確認し、授業の終わりに目標が達成できたか確認する時間を持つ。 本時のねらいを授業の初めに確認し、授業の終わりに目標が達成できたか確認する時間を持つ。 校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間に基礎基本の学習を進めることができる。 反復練習により、既習内容を確実に身につける。 国語の本読みを毎日続け、つまらずに読むことができるようになる。 わからないことを自分から質問できるようにする。 児童のアンケートの「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」との項目で、肯定的評価が70%以上になる。 全ての教師が、年間10回以上授業を見る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学年が朝学習に継続的に取り組ませることができたが、それぞれの内容についてより計画的に進めていく必要がある。 既習事項について反復練習することにより基本事項について定着してきている。 本読みに継続的に取り組ませることにより、内容理解につなげることができた。 授業の始めに必ずねらいを示すことにより、子どもたちがねらいをもって学習に取り組むことができた。また、「学習でわかりにくいことを、先生に質問しやすい」との質問に対し、肯定的評価が73%であり、一人ひとりが認められる学習環境作りができた。 概ね達成できたが、より普段の授業を見合う機会を増やしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習で行う学習内容について、年間をとって計画的に実施していく。 授業の始めに「本時のねらい」を示すこと、授業の終わりに「ふりかえり」を行うことを全ての教科において徹底していく。 いつでも授業を見合える環境作りを進める。 パワーアップ研修等によりより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己表現力を高めていくことは大切なことである。様々な工夫をもとに、子どもたちに話す力をつけていっていただきたい。 自分の考えを短時間でまとめ、相手に思いを伝えるなど、社会に出てから必要となる力もつけていくことを目指す。
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「読む力」を向上させる指導法、教材を研究する。 教科を限定せず、様々な場面でスピーチの活動に取り組む。 要約文や感想文を書く機会を増やす。 学習の時間に書く事を入れる。 視写をする。 授業の中で、比較・類推など思考する場面を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文を根拠として読み取ることができる。 月に1度は、クラス全員の前でスピーチをする。 友だちの考えと比較しながら自分の考えを深めることができる。 児童のアンケートの「授業はわかりやすい」との項目で肯定的評価が90%になる。また、保護者からの肯定的評価が90%になる。 時間内に思いや考えをまとめて書くことができる。 主張・根拠・理由を明確にして発表できる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教材を読み取る際に、本文を意識して読ませることにより、根拠をもとにした読み取りをすることができた。 様々な機会をとらえて、スピーチを行うことができたが、発達段階に応じた計画的な取り組みまで至っていない。 授業の中に意図的にペア学習等を取り入れることにより自分の考えを深めるための指導を行ってきた。「授業はわかりやすい」との項目で、児童の肯定的評価が93%、保護者の肯定的評価が95%である。 国語を中心に教科書に基づいて意見をまとめる取り組みを継続してきた。根拠を示しながら自分の考えを書いたり、発表したりすることができるようになってきている。 「先生は、教え方をいろいろと工夫している」との項目で、児童の肯定的評価が92%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチに関する到達目標を明確にするとともに、学校全体の場でスピーチをする場を設け、取り組みを共有する。 ノート指導等について学年、学校として共通理解を図ったうえで取組を進めていく。 	
	読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を充実させ、読書力・読解力・思考力の獲得を図る。 「読書の記録」を書く時間を設定し、活用する。 読み聞かせの時間を増やす。 週2回15分の「朝読書」を継続する。 週末に読書の宿題を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童のアンケートの「読書をするのが楽しい」との項目で、肯定的評価が85%以上になる。 1週間に少なくとも2冊は本を読む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童のアンケート結果は肯定的評価が84%と概ね達成できた。週末に読書の宿題を出すことにより、読書に親しむ機会が増えた。しかし、「読書の記録」の活用が十分ではなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちのニーズも把握した上で、図書館の本を充実させていく。 より意欲的に読書に取り組めるよう、読書週間の充実を図る。 「読書の記録」の活用をさらに図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書は大切なことである。学校が様々な機会を通じて本に親しむことができていくようにしていきたい。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 実生活に合った道徳、人権教育の授業に取り組む。 「33の約束」「39のルールブック」を道徳の授業で活用する。 「月目標」を設定し、全児童、全職員で取り組む。 冒険教育施設を有効に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 他人に対しての「思いやり」と自分の「あきらめない気持ち」をもって学校生活をおくることができる。 学期に1回は冒険教育施設等を使い、子どもたちに協力することの大切さを学ばせる授業をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「自分を大切にすることや友だちを大切にすることについて学んでいる」児童アンケート結果は肯定的評価が95%であった。 年度初め及び学期始まりなどに冒険教育施設等を使って協力することの大切さ、仲間づくりについて取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学習指導要領において実施となる教科「道徳」について研修を進め、子どもたちの道徳性を養う授業づくりに努めていく。 あいさつについての取り組みを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校の際には、子どもたちは元気に挨拶をしてくれている。
	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 日記やチェックシート等を活用し、子ども一人ひとりの状況とその変化を継続して把握する。 子どもと一対一で懇談する時間を設定する。(随時) 毎日、児童のよいところを見つけてほめる。 休み時間の様子を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なやみや不安があるとき、だれかに(先生や友だち、親など)に相談できる」との項目で、肯定的評価が80%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「なやみや不安があるとき、だれかに相談できる」児童のアンケート結果は肯定的が83%と概ね達成できた。 「学校が行くのが楽しい」との問いに肯定的評価は90%である。 いじめを把握した際には、校内で速やかに情報共有を図り、早期対応に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもへの積極的な声かけを行うとともに、家庭との連携及び教師間の情報交換を密に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、いじめの把握、対応についてしっかり取り組んでいっていただきたい。
	不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、担任、学校カウンセラーとの連携を深め、児童への働きかけを行う。 担任だけでなく、学年や全職員で情報共有し、共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 早期対応に努め、不登校児童を出さない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校カウンセラーも交えて個々のケースについて情報交換及び専門的な立場からの助言を受け、効果的な支援について共通理解を図った。しかし、早期対応についての共通理解をしっかりと図っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 早期対応について、学校全体で共通理解し、効果的なケース会議の開催等、組織的に対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 常日頃の学級づくりや児童との関係づくり、そして早期対応及び継続した支援について今後も取り組んでいくべきである。
	子どもの健やかな体づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 自らがすんで体力を向上させようとする意欲を育てる。 体育の授業で、ストレッチ、ランニング、縄跳びなどの体づくり運動を発達段階に応じたものにし「がんばりカード」などを用いて体力の向上を図る。 「わくわく業間タイム」を充実させる。 スポーツパッチの取り組みを保持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた「がんばりカード」で自分の伸びを記録し、設定した目標を達成させる。 全員すんで外で運動するようになる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に応じた「がんばりカード」を活用することにより、目当てに向けて工夫して取り組ませることができたが、6年間を見とおした計画的な体力作りが必要である。 全学的に行われている「みんなでジャンプ」に向け、進んで外に出て長縄に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年間の体力作りを見とおした系統性のある「がんばりカード」を作成する。 年間をとって継続的に体力づくりに向けた運動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが粘り強く取り組む力をつけていくことが大切である。学年を超えて、個人の伸びを感じられるような手立ても効果がある。
開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを通して学校情報を積極的に発信する。 「学校だより」「学年通信」を充実させ、学校の情報を積極的に発信する。 保護者からの相談や質問に素早く丁寧に対応する。 地域の行事にすすんで参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回以上ホームページを更新し、日常の学校生活を伝える。 保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」との項目で肯定的意見が90%以上になる。 保護者アンケートの「先生に、子どものことを相談できる」との項目で肯定的意見が85%以上になる。 「夏祭り」「ふれあい文化祭」など地域の行事等に教師がすすんで参加する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 週1回以上ホームページを更新することができた。また、保護者アンケート結果も肯定的意見が89%であり積極的な発信により学校情報について理解していただいた。今後もタイムリーに日常の学校生活を伝えていきたい。 保護者アンケート結果は肯定的意見が89%であった。引き続き相談しやすい関係づくりに努めるとともに素早く丁寧な対応に努めていく。 教師バンドやソーラン隊が夏祭りなどに参加するとともに、地域の行事に積極的に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年からの情報についてもホームページにて積極的に発信できるように取り組む。 引き続き相談しやすい関係づくりに努めるとともに、素早く丁寧な対応に努めていく。 図書や花壇整備、土曜学習などPTAボランティア組織を今後も大切にしていきたい。 PTA学力向上委員会の積極的な活動により「土曜学習教室」「漢字検定」「家庭学習の徹底・習慣作り啓発運動」などに積極的に取り組んでいただけた。継続を進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ソーラン隊など、担当される先生が替わっても継続して取り組んでいただけて子どもにとってもやりがいがあるのではないか。
	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> 「信頼される教師の育成」と「信頼される学校づくり」を推進する。 					

学校関係者評価総括

- 学校にはしっかりと取り組んでいただいている。さらに、通信等で取組の意図などを具体的に発信していただくと保護者も協力しやすい。
- 子どもたちの実態をつかむことが基本である。今後もしっかりと子どもの実態をつかんで取組を進めていって欲しい。
- 学校と家庭、地域が役割をしっかりと理解し、協力しながら取組を進めていくことが大切である。
- インターネットを介した様々な事案がある中、思いやりや相手の気持ちを考えること等、心の教育に力を入れて欲しい。

次年度に向けた重点的な改善点

- 授業の始めに「本時のねらい」を示すこと、授業の終わりに「ふりかえり」を行うことを全ての教科において徹底していく。
- スピーチに関する到達目標を明確にするとともに、学校全体の場でスピーチをする場を設け、取り組みを共有する。
- ノート指導等について学年、学校として共通理解を図ったうえで取組を進めていく。
- 新しい学習指導要領において実施となる教科「道徳」について研修を進め、子どもたちの道徳性を養う授業づくりに努めていく。
- あいさつについての取り組みを充実させる。
- 6年間の体力作りを見とおした系統性のある「がんばりカード」を作成する。
- 年間をとって継続的に体力づくりに向けた運動に取り組む。